

くにたち バロックアンサンブル 第3回演奏会



2006年6月3日(土)

13:30開場 14:00開演 入場無料

府中の森芸術劇場

ウィーンホール

くにたちバロックアンサンブル第3回演奏会によろこそおいで下さいました。

今回の演奏会では、バロック音楽を語る上で欠かせない、コレッリとリュリを初めて取り上げました。また、ウィーンホール of 音響のすばらしさに触発されて、第一、第二ヴァイオリンを向かい合わせにする新たな配置に挑戦します。さらに、有志による室内楽もお聴きいただきます。このように、初めてづくしの演奏会です。拙い演奏ではございますが、最後までごゆっくりお楽しみいただければ幸いです。

曲目紹介

G. B. サンマルティーニ Giovanni Battista Sammartini (1701-1775)

シンフォニア ト長調 1. Allegro ma non tanto 2. Grave 3. Allegro assai 4. Minuetto

G. B. サンマルティーニはイタリアはミラノの作曲家で、前回の演奏会でリコーダー協奏曲を取り上げたG. サンマルティーニの弟です。彼が作曲した多くのシンフォニアは、ハイドンやモーツァルトなどの古典派の交響曲の先駆となりました。今日演奏するシンフォニアも、単純明快な曲想が新しい時代の到来を感じさせます。

A. コレッリ Arcangelo Corelli (1653-1713)

合奏協奏曲 ニ長調 作品6-7

1. Vivace-Allegro-Adagio 2. Allegro 3. Andante largp-Allegro 4. Vivace

コレッリはイタリア・ローマの作曲家・ヴァイオリニストで、当時最も名声の高い音楽家でした。後期バロック音楽のスタイルを確立した人物です。この協奏曲は、ヴァイオリンの技巧を効果的に使った、輝かしい曲です。バロック時代の標準的なトランペットはD管で作られていたため、バロック音楽ではニ長調は華やかな、祝祭的な音楽のための調性でした。この協奏曲でも、第1楽章でトランペットの高らかな響きが聞こえてきます。

G. P. テレマン Georg Philip Telemann (1681-1767)

リコーダー、フルートと通奏低音のためのトリオソナタ ト短調

1. Soave ma non adagio 2. Vivace 3. Largo 4. Allegro

ここで有志による室内楽をお聴きいただきます。このトリオソナタは変わった楽器の組み合わせです。バロック時代はリコーダーの人气がフルートに移っていく過渡期だったのですが、そんな時代を象徴しています。テレマンは他にもリコーダーとフルートを組み合わせた曲を作っていますが、なぜかいつもワイルドな民族舞曲風の曲で締めくくられます。テレマンにとってこの組み合わせは、若い頃を過ごしたポーランドを思い出させるものだったのかもしれません。

M. ウッチェリーニ *Marco Uccellini* (1603頃-1680)

ベルガマスカによるアリア

イタリアはベルガモ地方の伝統舞曲「ベルガマスカ」をテーマにした変奏曲です。もとはヴァイオリンのための曲ですが、リコーダーでもしばしば演奏されます。通奏低音が同じ和声進行を繰り返す上で、2本のソプラノリコーダーがピコピコと駆け回る、楽しい曲です。



～休憩～

ホール内で「余興」を用意しております。お楽しみに...

A. コレツリ *Arcangelo Corelli* (1653-1713)

合奏協奏曲 ハ長調 作品6-10 1. *Preludio (Andante largo)* 2. *Allemanda (Allegro)*
3. *Adagio* 4. *Corrente (Vivace)* 5. *Allegro* 6. *Minuetto (Vivace)*

コレツリの合奏協奏曲をもう一曲お聴きいただきます。こちらは前奏曲に続いて舞曲を並べたタイプの協奏曲で、より柔らかく、親しみやすい曲です。

J. B. リュリ *Jean-Baptiste Lully* (1632-1687)

オペラ「アルミード」よりパッサカーユ

リュリはルイ14世時代のフランス宮廷で音楽界を牛耳り、イタリアに対抗して、オペラやバレエをはじめとするフランスのバロック音楽のスタイルを築き上げました。14歳の時にイタリアから小姓としてフランスにやってきたリュリは、ルイ14世に見出され、王の庇護の下で、始めはダンサーとして、後に音楽家として、そこまでのし上がったのです。その音楽には、フランスらしい繊細さだけではなく、王の権力を象徴するかのような力強さがあふれています。



くにたちバロックアンサンブル

くにたちバロックアンサンブルは、1992年に「くにたち市民オーケストラ」のメンバーを中心に、バロック音楽愛好家が集まって結成されたアマチュアの弦楽アンサンブルです。これまでにアルビノーニ、ジェミニアーニ、ヴィヴァルディのようなイタリア物のほか、J.S.バッハ、ヘンデル、テレマン、ムファットといったドイツ系の作品を手がけてきました。

BGM風の明るく軽快な感じに留まることなく、バロック音楽らしい表現を追及し、「語り」の効いた彫りの深い演奏を目標に練習を重ねています。

古楽の素朴な響き・旋律の美しさに魅せられながら、アンサンブルの楽しさを追求する団体、それが「くにたちバロックアンサンブル」です。

くにたちバロックアンサンブル ホームページ
<http://homepage2.nifty.com/shige-kun/kbe/>